

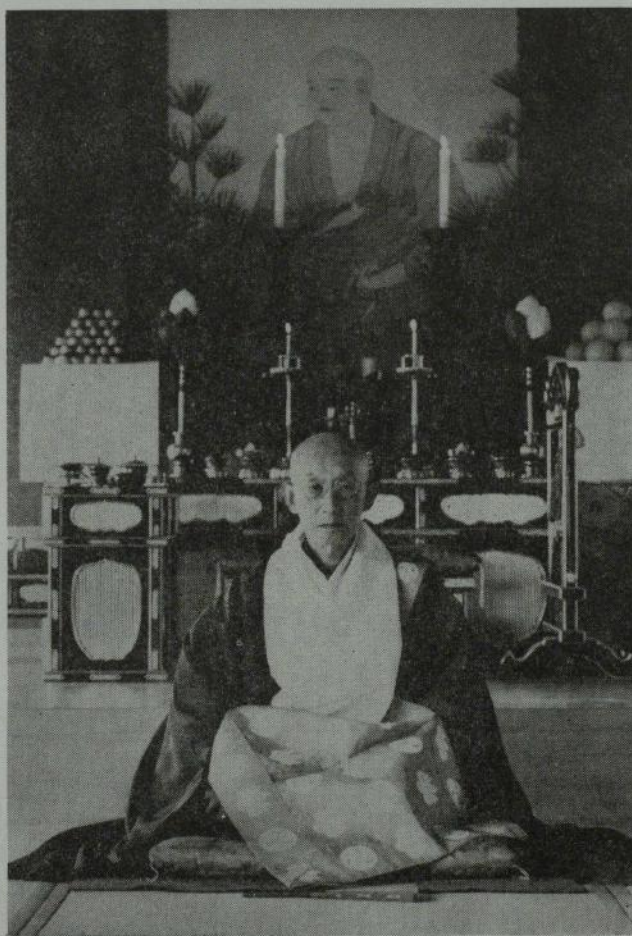
NO 161

全 仏

10/45

諸悪莫作 衆善奉行 自浄其意 是諸仏教

「悪小なるを以て而(すなわち)之を為すこと勿れ、善小なるを以て而ち之を為さざること勿れ。」これは三国史で有名な諸葛孔明の主、漢中王劉備(字玄徳、諡して昭烈皇帝という)が臨終に、皇太子え言いのこした言葉である。さすがに、頼明高祖の風ありと称せ



(高野山真言宗管長 堀田真快猥下
金剛峯寺座主)

られた王の遺言として、ひとりかの皇太子のみならず、何人も履行すべき古今を貫く人生の誡めである。しかし、これはまさに諸悪莫作、衆善奉行であるが、仏教の重んずるところは、これとともに、むしろそれ以上に肝要な、自浄其意に存することを深く思うべきであらう。

議 徒 教 徒 会 議

七千人の代表が結集

第十八回全日本仏教徒会議新潟大会は全日本仏教会、新潟県仏教会主催により十月七、八の二日間を会期に新潟県長岡市厚生会館を主会場に全国各地より仏教徒代表約七千名が参加して開催された。「みほとけのもと、みんなて手をつなごう」の大会スローガンのもと、会議は熱心に議題を中心に展開された。

大会第一日(十月七日)は午前九時四十分より大会式典を挙行、つづいて紀野一義学習院女短大教授の記念講演があり総会を開会した。午後は郷土芸能の紹介があり、午後一時から各支部会がもたれた。第一支部会は長岡文化会館大ホール、第二支部会は北越銀行本店大ホール、檀信徒部会は厚生会館大ホールで開催、青年部会は午後六時から十時まで八方台休暇センタリーで開催された。各支部会とも提出議題を熱心に討議して第一日を終了。

第二日(十月八日)は午前九時より北越銀行本店大ホールで総会を開き各支部報告が行われ、質疑の後に採決され、大会宣言、決議文が発表されて閉会式が行われ今年度の全日仏徒大会も盛會裡に終結された。

各支部に提出された議題は
第一部会

- ① 仏教のもつ積極性を認識させよう
(神奈川県仏教会)
- ② 靖国神社国家護持法案の本質を究明しよう
(近代仏教研究会)

- ③ 仏教徒は公害から自然生命を守り
仏国土の実現につとめよう
(国 柱 会)

- 第二部会
- ① 「お経を習おう運動」を普及しよう
(岐阜県仏教会)

- ② 仏旗掲揚の徹底をはかろう
(静岡県仏教会)
- ③ 各寺院に社会福祉相談院を開設しよう
(聖観音宗総本山浅草寺)

- ④ 青少年の非行対策の一議案
(福岡県仏教会)



- ⑤ 地方寺院及び住職の社会的実践について
(千葉県仏教会)

- ⑥ 仏教婦人の社会的実践について
(全日本仏教婦人連盟)

- 檀信徒部会
- ① 寺院と檀信徒は協力して仏教を興隆しよう
(新潟県仏教会)

- 青年部会
- ① 仏教に対する現代青年の意識とその問題点
(新潟県仏教会)

- ② 仏教青年は時代の問題点といかに

第十七回全日仏婦大会

関りあいを持つべきか
(全日本仏教青年会)

全日本仏教婦人連盟(山本スギ理事長)では全日本仏教徒会議新潟大会の一環として十月六日、新潟県高田市厚生会館を会場に第十七回全国大会を開催した。

本年度の大会スローガンは「みほとけのもと、より豊かな家庭をきずきましよう」であり、大会は三部から構成され、全国よりの代表三千名が参加し、仏教婦人の社会的使命を強く申し合せた。

当日は午後一時から開会され、善光寺一条智光副会長の導師により、エレクトリン奉楽の音楽法要がおこなわれ、平林有高豊山派管長の記念講演があった。

第二部の総会は午後一時から開かれ①新潟大会提出議案の説明②各支部会務報告③質疑応答がおこなわれた。ついで第三部は高田民謡保存会、高田市連合婦人会賛助出演による郷土芸能が披露され、午後六時からの懇親会によって閉会された。なを全参加者はひきつづき新潟大会に出席した。

社会教化講演会

全仏大会を一層もりあげるために社会教化者大会記念講演会が九月二十日午後一時から新潟市公会堂で開催された。渡辺新潟市長ら多数が参加し、山本スギ参院議員、紀野一義学習院女短大教授の講演に深い感銘をあたえられた。

第十八回 全日本 新潟県長岡市で開催

大会スローガン
みほとけのもと
みんなで
手をつなごう

大会役員

大会幹事長 鈴木 敏範
副幹事長 麻布 照海
幹事
第一部長 真湊 義貴
〃 副部長 北之内真竜
西塔 政舜



(全日仏徒大会主会場)

助言者 寮尼 清之
担当理事 栗本 俊道
〃 高橋 隆天
第二部長 白川 良純
〃 副部長 椎谷 健
福本 方尚
助言者 美濃部薫一
担当理事 村瀬 良彦
青年部会長 金岡 秀友
副部会長 石上 慈敬
高木 祝善
助言者 岩本 昭典

担当理事 松本 徳明
〃 立部 瑞裕
檀信部会長 池田 忠蔵
副部会長 矢代 勇
助言者 高木 照吉
担当理事 松田 弘俊
〃 宮前 鳳洲
山本 スギ
議事運営委員会
委員長 熊野 竜夫
第一部長 板橋 有成 今湊 良啓
郡司 博道 乙山 圓亮
〃 枇杷田義正
第二部長 新美 孝道 平沢 俊定
大平 文友 三輪美津子
青年部会長 井上 政徳 山田 一真
鎌田 良昭 木村 弘之
檀信部会長 柳下 隆侃 近藤 英雄
島田喜久子 佐藤 謙吉
議案審査委員会
委員長 神野 真一
副委員長 清水谷孝尚
委員 真湊 義貴 白川 良純
船口 暉子 西村 鯉成
壬生 照順 武田 統一
田村 白禪
宣言決議起草委員会
委員長 田中 香浦
副委員長 北川 一有
委員 新川 日見 門屋 大寿
石上 慈敬 高野 一能
牛腸 俊山

大会宣言

み仏は人間の苦難と不安を断ち除く教法を示し、法は現代文明と人類の進むべき道に光を掲げている。われら仏教徒は、第十八回全日本仏教徒会議新潟大会において、「みほとけのもと、みんなで手をつなごう」のスローガンのもと、宗派を超え、僧俗一体となって結集し、全一仏教運動の前進を誓い合ったことはまことに意義深いものがある。現下の激動する社会の中にあつて、われらは政治的、経済的な偏見を排除して万人が共存共栄し、人間を疎外するあらゆる原因を克服して人間生命の尊厳を復興し、一切の暴力と戦争の脅威を除き、青少年の健全な育成のため、家庭および社会環境の浄化に努力し、もって人類の福祉と世界の恒久平和のため献身することを誓うものである。

右宣言する。

昭和四十五年十月八日

第十八回全日本

仏教徒会議新潟大会

このほか大会決議(三項)が採決された。参加全員により「みほとけのもと再びあいましょう」と別れの歌が大合唱されて、意義ある大会を閉幕した。なを次期開催地については全仏当局で早急に決定することになった。

転法輪

仏教徒の社会的実践

このたびの全日本仏徒会議でのテーマの中心は、「仏教徒の社会的実践について」となっている。このテーマは、曾ての会議で屢々採り上げられたし、色々な決議も行われた。しかし今なお、これという見るべき実践運動が展開されているとはいえないようである。「全日仏」の文化専門委員会では、西義雄博士の原案を中心に熱心に論究した結果を「仏教徒憲章」として制定し、さらに現代仏教徒の「実践目標」をも公にしてその普及徹底に努めている。このような努力にもかかわらず一向に成果が上らないのは一体どういう理由があるのか。われわれは極めてラジカルな問をわれわれ自身に見る必要がある。

ある雑誌が、日本人の日常生活のなかで最も関心の深い事項について調査をしたことがある。それによれば、(1)健康(2)平和(3)仕事(4)家庭(5)自由(6)教育(7)愛(8)富(9)名誉(10)出世(11)快樂(12)信仰となつて、一番最後に信仰が関心の一つとなつてゐる。また、職業については、(1)大学教授(2)大臣(3)医師(4)弁護士(5)の順で、僧侶は、ホテルのマネージャーに次ぐ第十九番目となつてゐる。従つて、仏教々団(寺を含めて)などについては、一部の例外はあつても、まづ一般大衆の生活のなかで

は、殆ど関心がないといつてよい。近藤日出造氏が、あるテレビの座談会で「友人の葬儀で寺へ行くことはあるが、日常生活で、寺については何らの関係がなくても決して困らない」と発言しているのを聞いたことがある。日本の航空会社が訪日する外人に配布するパンフレットに、日本の仏教はただ葬儀に関係しているだけだと紹介しているという。これらの調査報告や一部の批判は、そのまま、妥当性を持った客観的事実だとは思えないが、少くともわれわれは、率直にこれらの世論を受け止めて厳しく反省し、自己批判をしなければならぬことだけは確かであろう。

「全日仏」といえば日本仏教の最高機関だと世間では思つてゐるが、その予算などはずかしくて公表出来ない。アメリカにおけるNCC(キリスト教協議会)の予算と組織の老なさを知つて、筆者はある意味で呆然とした。また仏教理論の指導者でなければならぬ仏教学者といわれる人々も、その多くは訓詁的な解釈論争に明け暮れ、およそ非現実的な古典学に終始しているし、仏教儀式にしても、最近例えば、音楽法要とか、大衆とともに行動行など行われ出したが、その多くは伝統の形式にあぐらをかいていて現代人には何等アッピールするところがない。寺院にしても、それは、信仰道場であり、聞法の場というわけではなく、観光対象だったり、葬儀場だったりして、しかも寺族の私有物と墮し、地縁による墓

地管理者である場合が多い。このような仏教界一般の土壤のなかからは仏教の社会的実践は生れよう筈がない。しかし、このような現状だからといって、仏教は決して滅んだのではない。最近の出版物で最も多く読まれるものは宗教書、特に平易な仏教書であるといわれているし、仏教哲学や、仏教思想に関心を持つ科学者は世界的に見ても非常に増えている。筆者は先年バチカンの前法王を書見の間に招じられて謁見を得たとき、書棚には沢山の仏教書が並べられていたし、法王自から仏教に興味をもつて研究していると語られていた。また先年アメリカのキリスト教神学界を攪動させた「神は死んだ」の新神学は、正に大乘仏教の菩薩道を探り入れた主張である。また最近宗教を排撃し続けてきたわが医学界が、その一部の人ではあるが宗教の真付けのない医学は病氣は直しても病人は直せないと言調している。病院学会の総会が「病院と宗教」をテーマに採り上げたことも注目し値するところであろう。癌研病院長の黒川利雄教授は、医学は自然(仏)と人間との仲だちをするものであるといつてゐるし、ヒポクラテースの有名な言葉に「医者にして哲学者たるものは神に等しい」というのがある。小松元京氏はその著「未来の思想」で、「絶対的現象論を通じて絶対的虚無にいたる仏教の理論は現代物理学が究極的にあらわしつつある宇宙像とおどろくほど似ている」と記している。

このように言葉使いに誤弊はあるが、口の仏教界は一般人に見はなされていても仏教そのものにはむしろ各方面からの関心が昂まつてゐるのである。この辺にわれわれが仏教徒の社会的実践を論ずるポイントがあるのではないかと思う。過日アジア開発と仏教のシンポジウムで板垣、川野、原三経済学者とロビーで話合つた際、仏教の縁起空観の理法、つまり相依・相扶・相成の思想は現代および未来社会の形成原理となるものであるのに、何故にこの理法から仏教の社会的実践を考えないのかと詰問された。

十六世紀以来世界を支配したのは西歐の文明であつた。従つて東洋思想や仏教は、これらの文明からは認識にみちたものだとされてきたし、東洋人自からもそのように考へてきた。しかし今や、その文明は崩壊しつつある。即ちその文明から人間は枯死しようとしてゐるのである。生きがいのない現代社会だと人々は感じてゐる。このように人間を疎外した社会を人間回復の社会にするにはどうしたらよいか、この問題こそ今や人類の強い関心事である。そして人間の幸福は決して個人だけが獲得できるものではないといふ現代ヒューマニズムが提唱され出している。つまり全体的人間の概念がそれであり、このような人間の現現には人類共同体の環境確立が先決だとされている。そしてこのような環境作りはもと既に始められてゐる。しかしこの作業には何としても確固とした精神構造の完

補が絶対的条件である翻って考えて見る
とき仏、法、僧の教法、理法、如実の智
慧以外に果して精神構造論があり得るで
あるうか。従ってわれわれはこの構造論
を大衆に理解せしめるために、きめの細
かいカリキュラムを作成してこれを一つ

一つ押し進めつつ仏教界自体の脱皮、体
質改善を図ることこそが現代の時点にお
いての社会的実践の根体であると信ず
る。何故ならば社会大衆から見はなされ
ている現状を取り戻すことが先決だから
である。(著)

世界宗教者平和会議開く

各国より三百名が参加

世界の宗教界の代表者が一堂に会して
平和実現のために真剣な討議をおこなお
うと「世界宗教者平和会議」の第一回が
日本の京都国際会議場を会場に十月十六
日から二十一日まで開かれる。

世界各国の宗教団体から約三百名の代
表、オブザーバーの出席が予定されると
いう画期的なもので、この会議は非武装
開発、人權の三テーマを中心に、それぞ
れの宗教が互いに本質を理解し、平和の
原理を追求することによって協力し合
い、平和運動を展開していくことが主旨
となっている。

討論の主題となる三テーマについての
基調講演は

△平和の原理

「ザフルーラ・カイン卿(オランダ

国際司法裁判所々長)」

△軍備なき世界の創造

「湯川秀樹博士(ノーベル賞受賞者)」

△人權

「R・J・ウエブロウスキー教授(ヘ
ブライ大学教授)」

△開発

「ユージン、ブレイク博士(キリスト
教世界教会協議会事務総長)」

以上の講演を中心に非武装、人權、開
発の三分科会によって討論される。また
各宗教別に「世界会議によせる我等の期
待」のテーマで話合れる。

なを会期中には仏教をはじめ各宗教によ
って平和実現への祈りがつとめられるこ
とになっている。

この会議の日本代表は日本宗教連盟よ
り推選されているが、日本仏教界代表は
次の各節である。

(大会名誉総裁)

大谷光昭師(浄土真宗本願寺派派管長、

全日本仏教会々長)

(名誉顧問)

岩本勝俊師(曹洞宗管長、全日本仏教

会顧問)

大谷光暢師(真宗大谷派管長、全日本

仏教会顧問)

岸 信宏師(浄土門主、全日本仏教会

顧問)

平林有高師(真言宗豊山派管長、全日

本仏教会副会長)

出口常順師(和宗管長、全日本仏教会
副会長)

(代表)

太田淳昭師(浄土真宗本願寺派宗務総
長、全仏常務理事)

三森言融師(真宗大谷派宗務総長、全
仏常務理事)

小林大蔵師(浄土宗宗務総長、全仏常
務理事)

宮前鳳洲師(曹洞宗教学部長、全仏常
務理事)

片山日幹師(日蓮宗宗務総長、全仏常
務理事)

釈 秀伝師(高野山真言宗宗務総長、
全仏常務理事)

江西寛堂師(臨濟宗妙心寺派宗務総長
全仏常務理事)

田中隆恵師(真言宗智山派宗務総長、
全仏常務理事)

築山学誉師(真言宗豊山派宗務総長、
全仏常務理事)

千葉照源師(天台宗宗務総長、全仏常
務理事)

稲田益界師(全日本仏教会理事長、日
本宗教連盟理事長)

鶴飼隆玄師(全仏関西事務所総長、会
議宗教別グループ議長)

伊藤哲雄師(全仏事務総長)

(オブザーバー)

熊谷雄幸師(全仏総務局長)

榎井大乗師(全仏組織局長)

新間信雄師(全仏国際局長)

白幡憲佑師(全仏文化局長)

(友愛代表)

朝比奈宗源師(臨濟宗円覚寺派管長、
世界連邦日本仏教徒協議会々長)

法輪閣の譲渡決定

全日本仏教会が万国博に施設参加した
「法輪閣」の有償譲渡については既に各
加盟団体に希望申込みの公示(全博第二
二号)を行ったが、申込み締め切り期間
の終了をみたので、十月一日、処分委員
会(鶴飼隆玄委員長)の第二回会合を京
都知恩院役寮で開催した。

申込み件数は四件であったが、委員会
は公正を期するために、万博会場地、す
なわち大阪府優先という特殊性を排斥し
て、四件の使途目的の公共性と価額を中
心に検討された。

その結果、和宗大本山四天王寺と宗教
法人浄土宗よりの申請を最適として、こ
の両者において話し合い決定することを結
論として、十月二日の常務理事会の了承
をえた。そして次の各項を記した決議を
発表し、法輪閣の処分決定を完了した。

決議(前略) ①昭和四十五年九月三日
全博第二二号の公示に基づき有償額は一〇
〇万円以上とする ②譲渡撤去の契約は
十月末日までに完了し同時に①項の有償
全金額を全仏に完納する ③譲渡対象は大
本山四天王寺に宗教法人浄土宗の両者の
中一者とする。両者は相互談合の上二週
間以内に対象者を決定の上譲渡並に撤去
の条件について全仏当局と協議決定す
る。(後略)

世界仏教の諸問題

W.F.B.常任理事会



（一部既報）W.F.B.常任理事会は十月三日セイロン国コロロン市のセイロン仏教会

会議室において開催されたが、全仏理事
長代理として浄土宗大頂寺住職・元静岡
大教授石井真峰師（全仏国際専門委員）
は日本代表として出席するため九月二十
九日午前九時発の日本航空機にて出発し
た。

出席した常任理事はW.F.B.会長フリン
妃殿下、W.F.B.事務総長サンカバシ氏、
W.F.B.計理部長ヤエンゲソン氏、アメリ
カ代表ミヤハラ氏、マレイシア代表テー
ンチャー氏、セイロン代表ウイリアム氏
日本代表の石井真峰氏の以上七名であ
る。

議案は左記の通りである。
一、前回理事会決議事項の確認につい
て。

二、W.F.B.事務報告について

イ ユネスコへ同意書届け出について

ロ W.F.B.ユネスコ委員について

ハ ルンビニ開発計画について

三、香港仏教会の申入れについて

四、第十回W.F.B.セイロン大会について

五、その他

イ ハンガリー亡命者の援助申入れに
ついて。

ロ アメリカ仏教センターからの申入
れについて。

ハ W.F.B.事務次長について。

ニ W.F.B.ハンガリーセンターからの
申入れについて。

ホ 六月に開催されたモンゴルのアジ
ア仏教徒会議について。

世界仏教指導者会議

韓国で開催

韓国仏教会では、十月十日より六日開
首都ソウル特別市において世界仏教指導
者会議が世界各国の代表が参加して盛大
に開かれた。

韓国における仏教による国際会議は戦
後はじめて行われるため朝野あ
げて準備に万全を期したのも
である。

仏教界の動き

(ニュース・投稿を歓迎します)

全日本仏教会に対しても、
その招請状がとどいたので種
々考慮の結果、仏教による国
際会議には代表を派遣する立
前と、日韓両国の古い仏教の
交流と親善を深めるために代
表を派遣することになり機関
決定を得て国際専門委員会委
員長の麻布照海、国際部長柳了堅、同部
真柄主事の三名をおくることになり、十
月九日午後四時三十分羽田発の大韓航空
機で出発した。

会議は十日より十二日までソウルの市
市民会館大ホールにおいて五十ヶ国約
四千名参加のもとに行われたもので議題

としては、仏教を次代に伝える努力を各
国仏教が真剣に討議があり、仏教を通し
ての世界平和問題に大きな力を与えるこ
とができた。

なお全日本仏教会では、戦前より日本
仏教各宗に対する協力および最近の日本
人遺骨の返還および今後の遺骨の返還な
どに対して謝意を表する大谷光照会長の
メッセージをおくった。

主な日程

一〇月一〇日 市民会館

開会式典および法要

開会の辞 大会長

経過報告 委員長

大統領祝辞

一一〇〇 国務総理招待

一四〇〇 本会議

一八〇〇 文化相招待

八〇〇 本会議

一一〇〇 ソウル市長招
待

一一〇〇 本会議

一七〇〇 農林相招待

八〇〇 本会議

一四〇〇 閉会式

九〇〇 板門店参観

二〇〇〇 大邱市

二〇〇〇 大邱市長招待

九〇〇 慶洲着

九〇〇 慶洲市長招待

一一〇〇 蔚山工場見学

一五〇〇 蔚山工場見学

一六〇〇 通度寺参拝

〃十五日 一〇二〇 梵魚寺参拝

一一〇〇 釜山市長招待

二〇三〇 ソウル着

〃一六日 日本大使館、旧日本寺院
の跡地視察および慰霊

全仏関西事務局人事

四月から事務引継ぎが法輪閣の運営の
ために延期されていたがこのほど事務局
が真宗大当派宗務所から浄土宗知恩院に
うつり関西事務局の人事異動は左記の通
り決定された。

事務総長 鶴飼 隆文

組織部長 二本松聖順

国際部長 岸本 賢祐

教化部長 春田 義正

主 事 須 博良

主 事 八橋 秀雄

主 事 武内 了真

主 事 藤本 徳生

事務局 京都市東山区林下町四〇

浄土宗総本山知恩院内

お知らせ

全仏制度調査委員会の浄土真宗本願寺
派からの委員が決定した。

岸本賢祐師(浄土真宗本願寺派公室長)